

PTA活動における

新型コロナウイルス感染症対応ガイド

第三版

2022年 9 月 5 日

市川市立大野小学校PTA

そうだ、やってみよう。



# もくじ

はじめに .....	2
1. 感染防止対策 .....	3
① 手指の洗い方 .....	3
② 手指消毒の行い方 .....	3
③ マスクの着用について .....	4
④ 家庭用マスクの種類 .....	4
⑤ 換気について .....	5
⑥ 清掃・消毒について .....	5
⑦ 新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法 .....	6
2. 学級PTA・委員会活動・PTA行事での対応 .....	7
① 学級PTA・委員会活動・PTA行事を行う場合 (運営者が気をつけること) .....	7
② 学級PTA・委員会活動・PTA行事を行う場合 (参加者が気をつけること) .....	8
3. 新型コロナウイルスについて .....	9
4. 差別や偏見、誹謗中傷 .....	11

## はじめに

2019年12月に中国・武漢市で報告された新型のコロナウイルスは瞬く間に世界中に拡がり世界的大流行を引き起こしています。日本国内でも緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されるなど大きな影響を受けています。今もなお、世界中で感染が拡大し、日本国内においても感染の拡大が続いています。

このウイルスが終息するまでのしばらくの間はこのウイルスと共に生活することが必然となり、基本的感染防止対策を徹底しながら生活していくことが提唱されています。

大野小学校は学校における新型コロナウイルスに関連する感染症対策として、市川市教育委員会が提示している『新たな学校生活スタイルガイドライン』（現在令和4年5月更新版・市川市教育委員会ホームページに掲載）に沿って日々子どもたちの教育をおこなっています。その中で、家庭との協力の徹底や、施設開放における注意点などを示しています。学校内での感染防止には家庭の協力が不可欠であり、家庭内においても「新しい生活様式」の実践をお願いすると共に、学校と家庭が協力していくことが重要であると考えています。

大野小PTAは、学校と共に感染防止に努めるとともに、学級PTAや委員会活動などで活用していただくために、日本PTA全国協議会が作成した「PTA活動における新型コロナウイルス感染症対応ガイド」（現在第三版 2022年7月20日）を基にして、本ガイドを作成・更新しています。本ガイドは現段階での知見に基づいています。今後の感染状況や最新の知見により必要な見直しを適宜行います。

第一版 2020年8月26日

第二版 2021年5月10日

第三版 2022年9月5日

## 1. 感染防止対策

### ① 手指の洗い方

- 1 腕時計や指輪を外す
- 2 手指を水で濡らす
- 3 せっけん液を適量手の平にとる
- 4 手の平と手の平をこすり合わせよく泡立てる
- 5 手の甲をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)
- 6 指を組んで両手の指の間をもみ洗う
- 7 親指をもう片方の手で包みもみ洗う(両手)
- 8 指先をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)
- 9 両手首までもみ洗う
- 10 流水でよくすすぐ
- 11 ペーパータオルでよく水気をふき取る
- 12 ペーパータオルで蛇口を閉める

- ウイルスのエンベロープ(膜)をせっけん液で破壊しウイルスを死滅させる。
- 水洗いのみでも効果はあるため、せっけんが無い場合は水洗いのみで行う。
- ウイルス残存率は、水洗い 15 秒で1%、60 秒せっけん洗い 15 秒すぎで 0.001% (森功次他: 感染症学雑誌、80:496-500,2006)



こすり合わせる



甲を洗う



爪を洗う



指の腹を洗う



親指の付け根を洗う



手首を洗う

### ② 手指消毒の行い方

- 1 腕時計や指輪を外す
  - 2 消毒液を適量手の平にとる
  - 3 手の平と手の平をこすり合わせる
  - 4 指先をもう片方の手の平でこする(両手)
  - 5 手の甲をもう片方の手の平でこする(両手)
  - 6 指を組んで両手の指の間をこする
  - 7 親指をもう片方の手で包みねじりこする(両手)
  - 8 両手首までこする
  - 9 乾くまでこすり合わせ
- 手指消毒剤はアルコール濃度 70%~95%のものが推奨です。

## ～手洗い・手指消毒のタイミング～

- ① 活動の前後
- ② 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- ③ 飲食前後
- ④ 清掃の後
- ⑤ トイレの前後
- ⑥ 共有のものを触ったとき
- ⑦ 公共交通機関の利用後

## ③ マスクの着用について

### ～マスクの着用が推奨される場面～

- ・ 屋内
  - ◎ 他者と身体的距離(2 m 以上)が取れない場合
  - ◎ 他者と会話をする場合
- ・ 屋外
  - ◎ 他者と身体的距離が取れず会話を行う場合

#### 1 表裏の確認

- マスクの説明に従って表裏を正しく着用する。

#### 2 鼻とマスクの間隙を作らないように密着させる

- ノーズフィットを鼻の形状にあわせるように曲げる。

#### 3 マスクを顎の下まで伸ばして装着する

- 少し強めの呼吸でもずれないことを確認する。

#### 4 マスクを外す際は紐にのみ触れて外す

- マスク表面には触れない。

#### ✕ 顎にマスク

- 顎に付着したウイルスがマスクの内側に付いてしまう。

#### ✕ 鼻だしマスク

- 鼻からウイルスが侵入する。くしゃみ時は鼻から飛沫が飛ぶ。

#### ✕ マスクの表面に触れる

- マスクの表面は汚れているため触らない。

## ④ 家庭用マスクの種類

- ガーゼタイプ:洗って繰り返し使える。(保湿効果あり)
- 不織布タイプ:花粉症流行により現在の主流タイプ。(フィルター性能により各種あり)

※フェイスシールド・マウスガード

マスクに比べ効果が弱いため、マスク無でフェイスシールド・マウスガードのみの場合は身体的距離をとる。

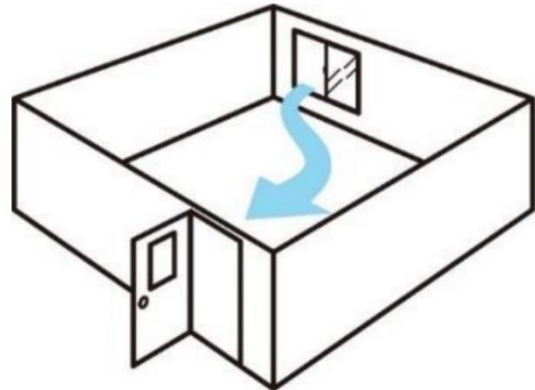
※一般的なウレタンマスク

不織布マスクや布製マスクに比べ小さな飛沫が防げないことに注意する。

新型コロナウイルス感染症の感染防止用マスクとして不織布タイプマスクが推奨されています。

## ⑤ 換気について

- マイクロ飛沫による感染を防ぐために密閉空間を作らない。
- 窓やドアを閉める場合は 30 分に 1 回以上は換気をする。
- 出来るだけ窓やドアを閉めずに密閉空間を作らない。
- 窓と反対側の扉(窓)の 2 か所を開けて空気の流れを作る。
- 窓のない部屋や、窓の開閉ができない場合は出入り口を開け換気を行う。
- 換気扇など換気装置は常に作動させておく。
- エアコンは部屋内の空気の循環のみであるため換気していることにはならない。(一部換気機能あり)
- 窓を開けてエアコンを使用する場合、設定温度を下げて熱中症に気をつける。
- イベント等で窓のないホール等を借りる場合は建物の換気について施設管理者に確認し、適切な措置を講ずる。  
(1人: 30 m<sup>3</sup> /h の確保(厚生労働省:「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法 3月30日))
- 外気温が低い場合は暖かい部屋を経由した換気(二段階換気)を行うなどの工夫をし、室温が下がりすぎないように注意する。

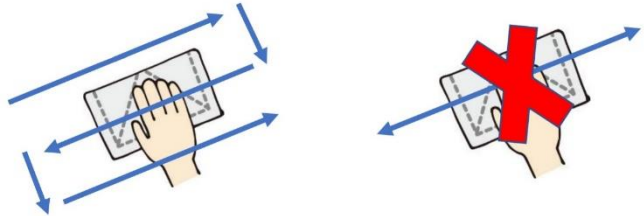


## ⑥ 清掃・消毒について

- マスクや手袋等の感染防護をする。
- 使い捨て除菌クロス等を使用し拭く。
- ゴミは袋に入れ密閉する。
- コンタクトポイント(皆がよく触る場所)を重点に拭く。
  - ✓ ドアノブ、スイッチ、机 など

- 清掃順序
  - ✓ 上から下
  - ✓ 奥から手前
  - ✓ 綺麗な方から汚れている方へ
  - ✓ 常に一方通行

- 机の拭き方
  - ✓ ○ S字に吹く
  - ✓ ✕ 往復ワイパー方式は行わない



- 会議や研修会等の通常使用においては、壁や床の消毒は不要。
- 物の表面に付いたウイルスの生存期間は、付着した物の種類によるが、24～72 時間程度とされているため、消毒できないものは生存期間を考慮し使用禁止とするなどの処置も有効。
- SARS CoV 2 ウイルスは段ボールの表面で 24 時間、プラスチックの表面で 72 時間生存。
- バケツの消毒液を使う場合（除菌 クロス 等 が無い場合）
  - ・ タオルを複数枚用意する。
  - ・ オフロケーション方式（汚れたら新しいものに取り換える）で行う。
  - ・ 消毒液の中にウイルスを入れない。
    - タオル→消毒液→拭く→使用済みへ 新しいタオル→・・・
    - × タオル→消毒液→拭く→消毒液→拭く→・・・
  - ・ 次亜塩素酸ナトリウムを使う場合は水拭きを行う。
  - ・ 次亜塩素酸ナトリウムで金属を拭くと変色する場合があるため注意する。
- 清掃に使用したマスク・手袋等はビニール袋に入れ密閉し廃棄する。
- 清掃作業後は手洗い・手指消毒を行う。

## ⑦ 新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法

- 手指用
  - せっけん・ハンドソープによる手洗い
  - アルコール（70%～95%）
- 物品用
  - アルコール（70%～95%）
  - 熱水（80 度のお湯で 10 分間）
  - 塩素系漂白剤等（次亜塩素酸ナトリウム 0.05%以上）
  - 家庭用洗剤等（界面活性剤・第4級アンモニウム塩）
  - 次亜塩素酸水
- ゴミは袋に入れ密閉する。
- コンタクトポイント（皆がよく触る場所）を重点に拭く。
  - ✓ ドアノブ、スイッチ、机 など

## 2. 学級PTA・委員会活動・PTA行事での対応

PTAの活動はPTA会員が運営者側と参加者側のどちらにもなり得る特徴があります。それぞれの立場で感染防止対策は異なりますがお互い気をつけあい感染防止対策を徹底していくことが大切です。

### ① 学級PTA・委員会活動・PTA行事を行う場合 (運営者が気をつけること)

#### 1 事前準備

- 開催場所の感染防止対策が十分に行われていることを確認する。
  - 参加人数に対して十分余裕のある部屋を予約する。
  - (窓のない)ホール等を借りる場合は建物の換気について施設管理者に確認し、適切な措置を講ずる。(1人: 30 m<sup>3</sup> /h の確保)
  - 参加者へは、必要な場面でのマスクの着用・体調が悪い場合は参加出来ないこと・感染者が出た場合、当協議会は保健所の調査に協力すること・参加者登録アプリを活用し感染者(濃厚接触者・感染経路)の特定に協力していただくことを事前に伝える。
  - 発熱や体調不良者が発生した時のため、会場を管轄する相談機関(保健所等)を把握しておく。
- 会議内容を精査し速やかに行えるように心がける。
- 参加者の席順について決めておく。
- マスクの予備(複数枚)、手指消毒剤・清掃用消毒剤、手袋、ゴミ袋を用意する。  
※役員会にて用意してありますので、ご活用ください。

#### 2 当日準備

- 事前準備の参加者は必要な場面でのマスクの着用、手洗い・手指消毒をする。
- 窓と窓の反対側の扉を開ける。(会議中も)
- 事前準備は最低限の人数で距離をとって行う。
- 事前に消毒作業を行う。(マスク、手袋等の防護必須)
- 参加者の出入り口に手指消毒剤を用意する。
- マスクを忘れた人には、PTAで保管している予備用のマスクを使ってもらう。
- 参加者の席の間隔を 2 m(最低 1 m)以上あけて設定する。(対面は避ける)  
(会場の広さを考慮して、十分な距離が取れる参加人数での開催をする)
- ゴミ袋等を設置し、ゴミの管理をする。

#### 3 当日の学級PTA・委員会定例会・各種PTA行事

- 受付担当者はマスク・フェイスガード等の感染予防を行う。
- 受付の参加者名簿にて参加者の記録を残す。
- 参加者の入場時には体調についての確認、手指消毒のお願い、必要な場面でのマスク着用をお願いをする。
- 発熱や体調のすぐれない方の参加はご遠慮いただく。



- 参加者の座る席を指定し、どこにだれが座ったのかを把握しておく。
- 入場の際は間隔を空けて移動出来るように誘導する。
- マイクを使用する場合はマイク(ヒト)→消毒→マイク(ヒト)とする。

#### 4 終了後

- 退場の際は間隔をあけて移動出来るように誘導する。
- 退場時も手指消毒をお願いする。
- 近距離での会話や接触を避け各自速やかに退出、帰宅していただくよう促す。
- 児童との接触は避けるようお願いする。(行事等の内容が、児童と一緒に参加するものである場合は除く)
- 清掃・消毒作業(マスク等防護必須)を行う。(適切なおみ処理)
- 手洗い、手指消毒を行う。

## ② 学級PTA・委員会活動・PTA行事を行う場合 (参加者が気をつけること)

### 1 事前準備

- 日々の体調管理を行う。(記録が望ましい)
  - ・ 感染者が出た場合に保健所の調査に協力できるよう準備する。
  - ・ 参加者登録アプリを登録し、感染者(濃厚接触者・感染経路)の特定に協力出来るよう準備する。
  - ・ 参加中(移動先)に発熱や体調不良を発症した時のために、参加先の相談機関(保健所等)について事前に把握しておく。
- 発言内容等を整理し短時間で終わるように心がける。
- マスクの予備を用意する。
- 携行手指消毒剤を用意し、移動中・参加中も使用できるようにする。

### 2 当日の学級PTA・委員会定例会・各種PTA行事

- 一日の行動について記録する。
- 体調の確認を行う。
- 発熱や体調のすぐれない場合は欠席する。
- 必要な場面でマスクを着用する。
- 携行手指消毒剤を携行し、移動中・参加中も適宜使用する。
- 入場の際は間隔を空けて余裕をもって移動する。
- 入場時には体調についての確認に協力する。
- 入場時に手指消毒をする。
- マイクを使用する場合はマイク(ヒト)→消毒→マイク(ヒト)とする。
- 会場(参加先)で発熱や体調不良が現れた場合は速やかに会場の責任者に伝える。

### 3 終了後

- 退場の際は間隔をあけて余裕をもって移動する。
- 退場時も手指消毒をする。
- 近距離での会話や接触を避け速やかに退出、帰宅する。
- 学校内での児童との接触は避ける。(行事等の内容が、児童と一緒に参加するものである場合は除く)
- 帰宅後すぐに手洗い、手指消毒、着替え等により自宅にウイルスを持ち込まないようにする。

### 3. 新型コロナウイルスについて

#### ① コロナウイルスとは

直径が約 100 nm (0.1 μm) で表面には 20 nm 程の突起があり、その見た目が王冠(ギリシャ語でコロナ)に似ていることからその名前がつけられました。エンベロープ(脂質二重膜)の中に RNA のゲノムがあり、表面にはスパイク(タンパク質の突起)があります。

ヒトに感染するコロナウイルスは現時点で 7 種類確認されています (国立感染症研究所資料を基に作成)

ウイルス名	病名	発生(年)	発生地域	宿主動物
HCoV-229E	風邪	毎年	世界で蔓延	ヒト
HCoV-OC43				
HCoV-NL63				
HCoV-HKU1				
SARS-CoV	SARS	2002~2003	中国広東省	キクガシラコウモリ
MERS-CoV	MERS	2012~	中東地域	ヒトコブラクダ
SARS-CoV-2	COVID-19	2019~	中国武漢市	調査中

#### ② 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とは

2019年に発生した新型のコロナウイルスによる感染症です。COVID-19「コビット-ナインティーン」は Coronavirus:コロナウイルス、Disease:疾病、2019年を表しています。COVID-19の原因ウイルスは SARS-CoV-2 です。

2019年12月に中国武漢地方で原因不明の重篤肺炎が発生し、新型のコロナウイルスが検出されました。2020年2月11日にWHOは新型のコロナウイルス感染症をCOVID-19と命名し、ウイルス表記をSARS-CoV-2としました。ウイルスは世界中に拡がり、同年3月12日にWHOはパンデミック(世界的大流行)を宣言しました。

日本国内においては2020年1月16日に国内初の肺炎患者が発生し、1月28日に国の指定感染症に指定されました。その後、国内での患者数が増加し、同年4月7日に7都府県に対し特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されました。4月16日からは緊急事態宣言の地域を全国に拡大され、5月25日に全国の緊急事態宣言は解除されました。同年8月に第二波として再び全国で感染者の増加が報告され、

11月から第三波と思われる増加が報告、2021年4月から第四波、8月から第五波が報告されています。2022年2月にはこれまでに最大の第六波が報告されています。

### ③ COVID-19 感染経路

- 接触感染:人→人、人→物→人と接触することによりウイルスがうつる。
- 飛沫感染:咳やくしゃみを浴びてうつる。  
※ マイクロ飛沫による感染:大声で話すとマイクロ飛沫ができ、空気中に20分ほど漂う。(NHKと日本感染症学会の実験より)
- 国内で感染が確認された方のうち80%の方は他の人に感染させていません。(新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解(2020年3月2日))
- 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させてしまう可能性がある期間は、発症の2日前から発症後7~10日間とされています。(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き 第3版)

### ④ COVID-19 症状

- 発熱 ・咳 ・息苦しさ ・疲労感 ・悪寒 ・筋肉痛 ・頭痛  
・喉の痛み ・味覚障害 ・嗅覚障害 ・吐き気 ・下痢
- 全く無症状の方もいます。

### ⑤ COVID-19 検査

- PCR 検査 ・現在の感染状況が分かる。  
・ウイルスを特徴づけるDNA(RNA)が有るか無いかが分かる。
- 抗原検査 ・現在の感染状況が分かる。  
・ウイルスを特徴づけるたんぱく質が有るか無いかが分かる。

## 4. 差別や偏見、誹謗中傷

新型コロナウイルスは未知のウイルスであるため、不安や恐怖心から感染した人やその家族、医療従事者への差別や偏見、誹謗中傷が行われているという報告が多く寄せられ後を絶ちません。そんな中、『差別や偏見、誹謗中傷をやめよう!』という声が様々な場所、様々な場面であがっています。新型コロナウイルスへの感染は誰にでも起こり得ることで、感染した人が悪いというわけではありません。感染を責める風潮は受診の遅れや感染を隠してしまうことにつながります。感染した人が速やかにしっかりと治療に専念していただくことが感染拡大を抑えるためにも大切なことです。

2020年8月25日に文部科学省は、文部科学大臣からの緊急メッセージを発表しています。

### 児童や生徒へ

「感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えて欲しいこと」

### 教職員や学校関係者へ

「誤った情報や認識、不確かな情報に惑わされることなく、正確な情報や科学的根拠に基づいた行動を行うことができるようになることを身につけさせる指導が大切であること」

### 保護者や地域の皆様へ

「差別や偏見、誹謗中傷を許さないこと。身の回りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげること」

### いずれに対しても

「感染を責める雰囲気広がれば医療機関での受診が遅れたり、感染を隠すことにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ること」

等が訴えられています。

### ～3つの感染症～

日本赤十字社では新型コロナウイルスによる“病气”“不安”“差別”の3つの感染症という考え方を発信しています。3つの感染症はつながっています。負のスパイラルを断ち切る必要があります。

文科省では、この「3つの感染症」の拡大をとめるために何ができるのか、不安を感じたらどうすればいいのか、感染症になった人・関わる人とどのように接するべきなのかを考える内容の動画教材を作成し子どもたちへの指導を行っています。



新型コロナウイルスによって、感染症を発症させられるだけではなく、人と人のつながりや人のやさしさが断ち切れようとしています。偏見や差別、誹謗中傷の根絶に社会全体で取り組むことが必要です。